

「基礎看護技術Ⅰ」学習指導案

広島県立広島皆実高等学校

(教諭・山崎 恭子)

本学習指導案のポイント(高校教育指導課指導主事 宮本 洋子)

本学習指導案では、看護過程の基礎となる考え方を理解させるだけではなく、対象者の退院後の生活を見据えた援助を行うための基礎的な知識を習得・活用する中で、対象者を生活者として捉える態度や思考を整理する力を身に付けることができるよう工夫された授業展開となっています。

単元の最後の授業として、これまでに思考、実施してきた内容を再評価し再立案させることで、対象の状態の変化に応じて継続的に看護を行う必要性について考察し学びを深めることができるよう工夫されています。

1 日 時 令和7年12月16日(火) 3限

2 場 所 看護棟3階実習室

3 対 象 専攻科1年生 38名

4 単元名 「基礎看護技術Ⅰ」急性期疾患患者の看護過程

5 単元の目標

単元を通して、術後合併症のリスクや回復への経過、退院後の生活を見据えた援助を行うための基礎的な知識を習得・活用する中で思考を整理し実践できる能力を育てる。

6 単元について

(1) 単元観

本単元では、急性期(早期胃がん、胃亜全摘術後)の事例を取り上げ対象の状態を科学的な視点で観察し、情報を総合的に把握して看護の必要性を判断し、解決すべき看護上の問題点を明確化し、行動計画を実施し、その後の結果を評価し、必要な追加修正をする。看護の一連の過程に沿って看護上の問題を解決するために思考する実践力を養う。

(2) 生徒観

生徒は5年一貫看護教育の4年目である。生徒に行ったアンケートで看護過程については「看護援助を行うために必要なもの」という問いには10割の生徒が「そう思う」と返答しているが、「看護過程は難しい・苦手である」という消極的な意見が8割と多数であった。しかし「積極的に身に付けたい」という意欲的な意見が10割であった。このことから、生徒は看護を行う上で看護過程の重要性は理解しているが、その複雑な思考過程から活用することに困難さを感じている。看護過程における思考力の習得には意欲的で、学習にも主体的に取り組んでいることが分かる。

(3) 指導観

指導にあたっては、急性期(早期胃がん、胃亜全摘術後)の事例を取り上げ解決すべき看護上の問題点を明確化し看護計画を立案する。それを基に、対象に応じた援助を実施し評価する学習活動を行う。看護過程を看護援助において有効に活用するためには、看護過程の基礎となる考え方を理解しておく必要がある。本単元では少人数の生徒を一人の教員が担当して、きめ細やかな指導が行えるような指導体制を取り入れ、授業前には担当教員が丁寧にミーティングを行い、看護過程の基礎となる考え方や、本時の生徒の到達目標の統一を行う。授業では生徒への必要に応じた個別指導や理解の確認等を行い進捗状況を確認しながら指導を行う。本時では立案した看護計画の修正について取り組み、グループで協働する活動を取り入れることで、チームで協働することの意義を感じさせながら実践力を身に付けさせたい。

7 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
急性期疾患患者における看護過程について理解するとともに、関連する基礎的な技術を身に付けている。	急性期疾患患者の状態について基本的な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見だし、表現している。	急性期疾患患者における看護過程について自ら学び、対象に応じて実際の看護を適切かつ安全に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

8 単元の指導計画(全15時間)

時間	学習内容	評 価			
		知・技	思・判・表	主	評価規準
1	術後1日目の問題の明確化 (2時間)	◎			事例患者のこれまでの生活状況を踏まえ、術後1日目の問題を明確にし、看護の方向性を理解できる。
2	術後2、3、7日目の問題の 明確化 (2時間)	◎			術後の合併症について理解し、術後2、3、7日目の問題を明確にし、看護の方向性を理解できる。
3	関連図・全体像 (2時間)	◎			多角的に情報を分析し理解し、明確化した看護問題に優先度をつけることができる。
4	看護計画 (2時間)		◎		看護問題解決のための目標設定と解決策となる計画を考え、表現できる。
5	看護計画 (2時間)		◎		立案した看護計画について、実施する看護を具体的にケアレポートやパンフレットに表現することができる

6	校内演習 実技準備 (2時間)		◎	看護過程を見直し、追加・修正に主体的に取り組もうとしている。
7	校内演習(実技) (2時間)		◎	対象に応じた実際の看護を適切かつ安全に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
8	急性期看護過程のまとめ (本時)(1時間)		◎	対象の変化に応じて継続的に看護を行うことの必要性について思考し、多面的な視点から状況をアセスメントし、チームで協働して看護計画の内容を修正することができる。

9 本時の展開

(1) 本時の目標

事例患者に必要な看護計画の見直し(追加・修正)を根拠をもとに考え表現することができる。

(2) 観点別評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	対象の変化に応じて継続的に看護を行うことの必要性について思考し、多面的な視点から状況をアセスメントし、チームで協働して看護計画の内容を修正することができる。	

- (3) 準備物 ・教科書 医学書院「臨床外科各論」・実習記録マニュアル・ワークシート・赤、赤以外のボールペン
・各グループの7日目の「退院を見据えた看護計画」(2号用紙)

(4) ルーブリック

A (十分満足)	B (おおむね満足)	C (努力を要する)
対象の変化に応じて継続的に看護を行うことの必要性について思考し、多面的な視点から状況を科学的にアセスメントし、活発な意見交換を行うことで自身の思考が深まり、看護計画の内容を適切に修正することができる。	対象の変化に応じて継続的に看護を行うことの必要性について思考し、多面的な視点から状況をアセスメントし、チームで協働して看護計画の内容を修正することができる。	継続的に看護を行うことの必要性について思考し、状況をアセスメントし、協働して看護計画の内容を修正することができる。

(5) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
導入 8分	1 本時の目標の確認をする 2 本時の内容を理解する	◇本時の目標を確認し、授業内容を伝える。 ◇他者の考えは青以外の色で記入させる。	
展開 35分	3 動画を視聴	◇事例動画【Aさん入院8日目】を視聴させる。	対象の変化に応じて継続的に看護を行うことの必要性について思考し、多面的な視点から状況を科学的にアセスメントできる。 【思考・判断・表現】 (ワークシート) チームで協働して看護計画の内容を修正することができる。 【思考・判断・表現】 (グループワーク)
	4 個人ワーク・事例患者の状況 5 グループ協議 ・4~5名×8グループ ・他者の意見を参考に自身の考えを深める。 6 全体共有 ・クラス全体で共有する。	発問① 「なぜこのような状況が起きたのか？」 ◆事例患者を多面的に捉え、様々な視点から思考するように声をかける。 ◇事例の状況をアセスメントさせる。 ◇個々の意見をグループで共有し、他者の意見を取り入れることで、自身の思考を深めさせる。 ◆生徒の思考を順序だてて思考できるよう、整理する声掛けを行う。 ◇他者の考えは青以外の色で記入させる。 ◇必要な観察項目を追加し、問題解決策となる看護援助を具体的に考え追加するよう促す。 ◆発言しない生徒へ声をかけたり、協議を活発化する助言を行う。 ◇異なった視点で協議したグループに発表させる。(2G~3G)	
まとめ 7分	7 本時の振り返り	発問② 「対象の変化に応じて継続的に看護を行うために必要なことは？」 ・看護計画は計画の見直しをし、追加・修正をすることが重要 ◇ルーブリックを活用し、本時の到達度、今後の課題を明確化する ◇急性期疾患患者の看護過程の最終提出に向け再度見直し、追加・修正を促す。	【思考・判断・表現】 (看護過程記録)